

経営のヒントとなる言葉

イチロー

「野球のことを愛したことだと思います...」

Index

イチロー（元プロ野球選手）

イチロー（元プロ野球選手）

「野球のことを愛したことだと思います。これは変わることはなかったですね」
（＊）

出所：「イチロー引退『会見全文・前編』（2019年3月22日付）」（朝日新聞出版）

冒頭の言葉は、

「絶対に変えたくないものが一つあればいい。それが全てのよりどころとなる」ということを表しています。

2019年3月21日。日米をはじめ世界中の人々が、野球界のスーパースター、イチロー氏の現役引退を見守りました。日本の球界で9年、米国メジャーリーグでは19年目に突入していたイチロー氏は、この日、28年のプロ野球人生に区切りを打ったのです。

イチロー氏の現役引退は、人々に、一つの時代が終わったかのような衝撃と感慨をもたらしました。多くの報道陣が詰めかけた引退会見の中で、「貫いたもの、貫けたものは何か」と問われ、しばらく考えた末に、イチロー氏が答えたのが冒頭の言葉です。

イチロー氏は、日本だけでなく、メジャーリーグでも首位打者や10年連続200本安打など数々の記録を打ち立てました。輝かしい記録とともに人々の心に残っているのは、常にストイックに自分と向き合い、野球を追求し続けるイチロー氏の姿です。

イチロー氏は、小学生の頃から、一流のプロ野球選手になることを目指してきました。この夢を何が何でも実現すると決めた覚悟が、あのストイックな姿に表れているのかもしれない。こうした覚悟は、引退会見の次の言葉からも感じ取れます。

「自分がやると決めたことを信じてやっていく。でも、それが正解とは限らないわけですよ。間違ったことを続けてしまっていることもあるんですけど。でも、そうやって遠回りをすることでしか本当の自分に出会えないというか、そんな気がしているので」（＊）

一流のプロ野球選手であり続けることは、イチロー氏にとって、決して楽しいことではなかったはず。苦しいこと、つらいことも含め、野球をやるための全てのこと、真正面から相対する覚悟を持ち続けなければならなかったのでしょう。

だからこそイチロー氏は、「何があっても野球を愛し続ける」と決め、その気持ちだけは決して変えない、変えたくない「自分自身のよりどころ」にしていたのではないのでしょうか。

経営者も同じです。社員を育て、守り、利益を出し、そして新しいことにチャレンジしながら会社を継続していく。こうした会社経営は、苦しいことやつらいこと、思いもよらないことの連続です。それでも経営者は、決して逃げることはできません。

間違えるかもしれない恐怖と戦いながら、自分の決断を信じ、やっていくしかないのです。そうした経営者のよりどころとなるのは、「絶対にこれだけは変えない、貫く」というたった一つの思いかもしれません。イチロー氏でいえば「野球を愛する」思いです。

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。